

岡山市におけるカメの捕獲効率の季節変化

千田慎太郎・武田和真・重政恒・亀崎直樹

岡山理科大学生物地球学部生物地球学科

Seasonal change of catching turtles in Shirakabe area, Okayama city.

By Shintaro CHIDA, Kazuma TAKEDA, Hisashi SHIGEMASA and Naoki KAMEZAKI

Department of Biosphere-Geosphere Science, Okayama University of Science

淡水ガメの生息密度を知ることは、その生態を研究する上で重要である。しかしそれを知ることは難しく現在のところ単位捕獲努力量あたりの捕獲数で示すしかない。一般的には CPT すなわち 1 網あたりに入るカメの平均個体数でそれを示すことが行われている。しかしながら、カメの捕獲効率は水温などの環境要因などによって左右されることが考えられ、それをそのまま使用するには懸念が存在する。そこで私達は同一池で CPT にどの程度の差が生じるかを検証してみた。岡山市北区白壁地区の池 6 ヶ所でカメ網を用いてカメを捕獲した。各池の面積に合わせ網の設置数を変え、白壁新池：7 網、白壁中池：5 網、白壁奥池：5 池、白壁三角池：4 網、原上池：4 網、原中池：4 網とした。餌は魚を使用し、網は設置後 3 時間で引き上げ、調査は 2 週間に 1 度の間隔で行った。捕獲されたカメ類は全てもとの池に放流した。クサガメ *Mauremys reevesii*、ミシシippアカミミガメ *Trachemys scripta elegans* (以下、アカミミガメ)、ニホンイシガメ *Mauremys japonica* の 3 種が捕獲された。全種で 157 個体が捕獲でき、捕獲数は白壁中池：73 個体、白壁奥池：30 個体、白壁新池：25 個体、原中池：16 個体、白壁三角池：11 個体、原上池：2 個体の順で多かった。クサガメは全池で 127 個体が捕獲され、アカミミガメは 27 個体、イシガメは 3 個体だった。クサガメは白壁中池：60 個体、白壁奥池：25 個体、白壁新池：20 個体、原中池：13 個体、白壁三角池：9 個体、原上池：0 個体の順で捕獲数が多かった。アカミミガメは白壁中池：13 個体、白壁奥池：5 個体、白壁新池：5 個体、原中池：2 個体、白壁三角池：2 個体、原上池：0 個体の順で多かった。イシガメは原上池：2 個体、原中池 1 個体、白壁中池：0 個体、白壁奥池：0 個体、白壁新池 0 個体、白壁三角池：0 個体の順で多かった。この結果より 1 網あたりの捕獲数、すなわち CPT を求めた。CPT の季節変化をみるにはある程度、カメの捕獲個体が多い池を選ぶべきと考え、合計 73 個体が捕獲された白壁中池と、同じく 30 個体が捕獲された白壁奥池で CPT の季節変化をみた。CPT は両池で同じような傾向を示し、クサガメは 6 月と 9 月で、アカミミガメは 9 月に CPT の上昇がみられた。このことから異なった季節の CPT を、密度の指標として、単純に比較することは危険であることを示している。今後のより詳細な研究とともに、CPT を密度の指標として用いるためには、方法の改善が求められる。